さっぽろ円山動物園

サポクラ通信

令和5年(2023年)10月号

今月の内容は…

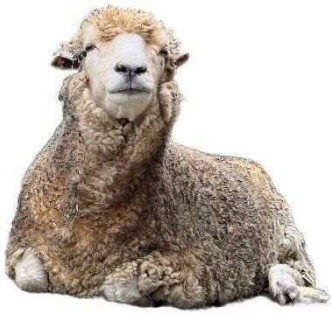
・もこもこ姿に大変身 ……1

・熱帯鳥類館の鳥の紹介 ……4

・エランドと僕 ……8

さっぽろ円山動物園サポートクラブ事務局

もこもこ姿に大変身



サポクラ会員のみなさま はじめまして。
今年からヒツジ・エゾタヌキ担当になりました、藤田と申します。

今年の夏は、札幌も記録的な猛暑となりましたが、動物たちも頑張って乗り越え、
いよいよ北海道らしく肌寒い季節がやってきましたね。
さて、そこで今回のテーマは、「寒い季節を乗り越える動物の秘密」です。
冬を暖かく乗り切るためのヒツジの被毛と、エゾタヌキの越冬についてお話をします。
まずは動物たちの近況を紹介します。

ヒツジ

今年の夏は異例の暑さで、毛刈りをしたとはいえとても暑そうに
過ごしていました。
暑さ対策に試行錯誤しているうちに、あっという間に涼しくなって
最近のヒツジたちには過ごしやすそうです。
開園前の放飼時、朝一番に園内の落ち葉を食べに行きます。
東屋に給餌した乾草には目を向けず･･･。
落ち葉はじっくり選んでいるみたいです。時間をかけて園内を散策
していて、散策するエリアも毎日変えているようです。
人間の目では判別が難しいですが、美味しい落ち葉とそうではない
ものがあるようですね。
さすが、嗅覚も視覚も優れているヒツジだなぁと感心します。

エゾタヌキ

最近は冬に向けてたくさんの餌を食べて過ごしています。
基本の給餌メニューは決まっていますが、
季節の植物や実をプラスして与えることもあります。
現在は、冬に向けて増量中。夏の終わりから餌量も徐々に増やしています。
過去にもその時期の旬な食べ物を様々与えていますが、
リクとユキは食べ物の好き嫌いがハッキリしています。
食べないものは興味なさそうに完全スルーですが、
美味しいものは目を輝かせて食べています。
最近では秋の味覚、柿、栗、梨などを与えてみました。
柿は美味しそうにペロッと完食してくれました。

ヒツジの冬

ヒツジは厳しい寒さをもこもこの被毛を武器に過ごしています。そこで、「被毛」についてのお話です。

①冬の姿

毛刈り直前の「さくら」

ヒツジは人間が毛を利用するために改良されている家畜です。
家畜化の歴史の中で、毛が伸び続けるように品種改良されており、
自然に抜け落ちることはありません。
野生のヒツジとは違って換毛をしないため、人間が毛刈りをしないと
なんと一生伸び続けます。毛刈りは夏になる前に行います。
そして冬まで毛は伸び続けもこもこ姿で冬を過ごします。
寒さから身を守るには優れている被毛ですが、夏は暑くて熱中症や
病気を引き起こす原因になるため、毛刈りは、夏になる前に行う必要があるのです。
スッキリした姿で夏を乗り過ごし、あっという間にもこもこ姿になります。

今年の毛刈りで取れた分を
お湯で洗った状態の羊毛

②優れた性質

ヒツジには皮膚から脂を出す分泌腺があります。
ヒツジを触ると手がベタっとしますが、これはヒツジから出ている
脂が羊毛にまとわりついているのです。
この油分を加工したものは「ラノリン」と呼ばれ、ハンドクリームな
ど化粧品にも使用されています。
この油分は、ヒツジの毛１本１本をコーティングしてくれます。
そのため、保温性があり雨水を弾いてくれます。
冬、雪が降るたびにびしょびしょになっては大変です。
この優れた油こそ、寒さを耐え凌ぐための大きな役割を担っているの
かもしれません。

◎分泌腺･･･目の縁にある眼窩腺(目の下)、鼠蹊腺(後ろ足の付け根)、趾間腺(蹄の間)の３つ。

特有の臭いを放つ物質で個体間のコミュニケーションにも使われているようです。

毛刈りのお話

円山動物園では毎年ゴールデンウイーク頃に毛刈りを実施しています。
実際に毛刈りをするとまっすぐきれいに毛並みを揃えるのはかなり難しく、体力も頭も使いました。
では、今年の毛刈りは１頭からどのくらいの羊毛が取れたでしょうか？
さくら：6.7kg、なぎ：5.9kg、くるみ：4.6kg、まつこ：4.4kg です。
１頭あたり平均 5.4 kgです。この重たい羊毛を纏って、
ヒツジたちは暖かく冬を過ごしています。
右の写真は、毛刈り直後の「さくら」と「くるみ」。
１年をかけて徐々に伸びていく毛並みの様子を
ぜひ見比べてみてください。

エゾタヌキの冬

エゾタヌキといえば、まんまるもこもこの姿が印象的ですね。あの姿は冬の姿です。
冬眠をしないエゾタヌキは、「冬ごもり」といって活動を抑えることで寒さが厳しい冬を乗り越えます。

① 被毛

春～夏は上毛のみのスッキリとした姿。
秋～冬にかけては下毛が生え、2層構造の暖かい被毛を纏います。
◎毛の違い…上毛：汚れなどダメージから身を守るための長くて粗い毛
下毛：暖かく綿のような細くて密度のある毛

9月下旬の餌
冬に向けて現在はもう少し増量中

②蓄える

夏と冬の姿の違いは被毛だけではありません。
エゾタヌキは体重も季節を通して増減しています。
春夏は4～5kg。秋冬の体重はなんと夏の約1.5倍。
冬ごもり直前は7～8kgに増えます。
その理由は、越冬に向けて食べ物が豊富な秋から食欲が増し、
飽食を続けるからです。そして厚い皮下脂肪を身につけます。
この皮下脂肪を消費して冬を過ごすのです。

リク・ユキ体重のお話

現在、週に一度体重測定を実施しています。
2頭とも、とてもスムーズに測定できます。
夏(7月)の体重‥リク：4.80kg、ユキ：5.75kg
現在(10月中旬)の体重･･･リク6.15kg、ユキ：6.50kg

リク：体重測定が終わった後も
得意げな顔で乗り続けています

7月

10月

7月のユキと現在のリクです。
すっかり冬の姿に近づいています。

ヒツジもエゾタヌキも、夏と冬で姿が全く異なる動物です。一年を通して今しか見られない姿です。
ぜひ冬の姿の動物にも会いにいらしてください。

熱帯鳥類館の鳥の紹介

サポートクラブの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。

今年から熱帯鳥類館の鳥たちの担当になりました、吉田雪乃と申します。

普段お客様から「鳥がいない！」、「どこにいるの？」というお声をいただくので、

鳥を探しやすい時間帯や、発見ポイントをご紹介します。

フラミンゴ

展示場所を聞かれることが多いですが、5,6月から10月くらいは熱帯鳥類館の外にある、屋外放飼場で展示しています(旧世界のクマ館付近の坂を下ってみてください)。寒くなり始める10月ころから5,6月までは熱帯鳥類館の屋内、バードホールの左側で展示しています。

時期によって展示場所が違うのですが、展示場所さえ把握できれば鳥インフルエンザで熱帯鳥類館が閉鎖にならない限り観察できます！

※飼育羽数：チリーフラミンゴ 20 羽、ベニイロフラミンゴ 7 羽（2023 年 10 月末時点）

オニオオハシ

バードホールの中で一番探しやすい鳥です。エサ台や木に止まっているときは黄色い大ききなくちばしが目印となり、とても探しやすいです。

ただ、鉄骨の上にいるときは探しにくく、

たまに尾羽しか見えないことも…。

バードホールを見渡して姿が見えないときは、2 階へあがり左側にご注目ください。飼育員が昇るためのはしご部分や、2 階窓近くの鉄骨を探してみると姿が見えるかもしれません。どうしても見当たらないときは、巣の中で休んでいますのでご了承ください。

※飼育羽数：2 羽（2023 年 10 月末時点）

セイキムクドリ

バードホール内でよく鳴いている鳥が、こちらのセイキムクドリです。割とあちこちに飛んで移動していることが多いです。探す際はまず、鳴き声がする方向を中心にバードホール全体をご覧ください。そのうちに飛ぶ姿が見られるかもしれません。よくいる場所は 1 階の暖房上、壁についている段差、エサ台、手すり、地面、木の枝先、2 階天井の鉄骨です。それでも見当たらない場合は、葉っぱの動きに注目です。飛ぶ際に葉が揺れます。

※飼育羽数：3 羽（2023 年 10 月末時点）

ノドグロコウカンチョウ

バードホールにいる鳥の中で探すのが一番難しい鳥です。午前中のエサを与えるタイミングや、閉園間際に姿を見かけやすいです。エサの時間にはサトウチョウのゲージや周辺の植物、1 階のエサ置き場に現れま

すが、たまに 2 階のエサ置き場にもいます。閉園間際は 2 階より上の鉄骨周りを飛び回っていることが多いです。日中は探すのが特に難しいのですが、左奥にある滝の左側にある大きく茂った木で休んでいることが多く、双眼鏡の使用がおすすめです。

※飼育羽数：1羽（2023 年 10 月末時点）

サトウチョウ

サトウチョウはバードホール 1 階の黒色のゲージの中で飼育しています。体が全体的に緑色なので植物と同化しがちなのですが、胸や尾羽の赤色に注目すると見つけやすいです。人目によるストレスを軽減するためにゲージ内には目隠しをいくつか付けてあります。姿が見当たらない際は、右上奥の目隠し裏の止まり木にいることが多いです。

※飼育羽数：2羽（2023 年 10 月末時点）

インドクジャク

9 月から展示場所がバードホールに移動しました。現在はバードホール 1 階を広々と使っています。メスなので地面や植物に姿が溶け込んで見つけづらいですが、体が大きいことや、首元がきれいな緑色であること、歩き回っていることが多いので、よ～く見ていただくと見つけられます。

※飼育羽数：1 羽（2023 年 10 月末時点）

オオジシギ

2 階にある 2 つの部屋を 1 羽で使用しているため、左右どちらかの部屋にいます。基本的に部屋の手前にいることが多いです。動いているときは見つけやすいのですが、座って休んでいるときは見つけにくいです。細長い嘴を目印に探してみてください。

※飼育羽数：1羽（2023 年 10 月末時点）

最後に・・・

熱帯鳥類館内のバードホールは広さもあり、背の高い植物もたくさん生えています。しかも鳥たちは植物だけでなく、建物内の鉄骨なども上手に利用しています。そのなかで鳥を見つけることは難しく感じることもありますが、ご自身で鳥を探すことの面白さも体感していただきながら熱帯鳥類館を楽しんでいただけると嬉しいです。また、鳥だけではなく植物の成長もぜひご覧ください。最近はバナナが半年ぶりに実をつけています。

サポートクラブの皆様のご来園をお待ちしております。

エランドと僕

円山動物園サポートクラブの皆様、いつも円山動物園をご支援いただきありがとうございます。

今年度からエランド、シマウマ担当になりました塚田です。

エランドといえば、一部の職員にとっては、とても思い出深い動物です。

2017 年に動物園界のレジェンドである小菅参与の主催で実施された職員の勉強会、小菅塾！！今、思い返しても涙が出そうになります。

自身の動物園経験の中でも 2 番目につらい体験です。1 番目については、とてもここでは語れません。

初回のお題は「エランドの形態的な特徴を挙げよ！」

で、エランドは見れば見るほど特徴的なんですね。

捻じれた角はもちろんですが

胸垂とか額毛とか

前肢の黒斑や

蹄との境目にも黒い線が。

控えめなたてがみと白縞も・・

さらに、「動物の形には必ず意味がある！その機能を挙げよ！」とのことなんですが・・なかなかわかりません。

大きく垂れ下がった胸垂は、捕食者に対して大きく見せるためのシグナルとしての役割や、体温調節のために機能しているなどと仮定されていますが、その機能は全く解明されていません。大きく見えるといえば見えますが、あの巨体に対してどうかなって思いますし、体温調節を行っているのなら血管の走行がもう少し浮き出てわかりやすいのではと思います。そもそも毛が生えているあたり、体温調節が目的ではないような・・・

額毛は、年を取るにつれ、範囲が広がりより黒くなってくるそうです。

♂は同種の尿や泥などを頻繁に塗りたくり、木などに擦り付ける行動も行い、エランドは嗅覚が優れているとも言われていることから、匂いを付けることで同種に対しての何かしらのシグナルとして機能しているのかもしれない。また額毛を含む顔や体全体の黒さは、より大型の個体で顕著となり、これは男性ホルモンが影響していると推測され、より強さを誇示していると考える研究者もいる。

などとされていますが・・・

かゆいのかも・・

ごっそり抜けます。

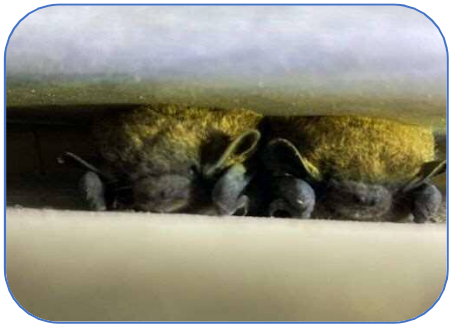
エランドの勉強会で、文献を鵜呑みにするな！と繰り返し注意されて、観察することの大切さ、観察で読み取ったことの考え方、文献の

読み取り方などたくさんのことを学びました。

今、円山動物園の事業として実施しているコウモリの調査も担当していますが、勉強会で学んだことがとても役立っています。コウモリ類は国内ではあまり調査が進んでおらず、主に調査を行っているクロオオアブラコウモリは環境省レッドリスト 2020 で「DD（情報不足）」にランクされています。

コウモリは夜行性で小型の種が多く調査しにくい動物です。文献では少ない調査事例からその生態が伝えられていますが、実際に捕獲して飼育したり、野外で調査を行ったりする中で、なんか違うなってことがたくさんあります。

担当動物の飼育も、コウモリの調査も、勉強会で学んだことを活かし、飼育下だからこそできる観察や実験的な取り組みを行い、得られた知見をみなさまにお伝えしていきたいと思います。



↑３年前の調査で撮影したコウモリ